

昭和二十八年 度

早慶戦復活と私の柔道

福田 満

昭和二十八年、戦後学校での武道が占領軍から禁止されていたのが復活し大学選手権等が開かれる様になっても、当時のわれわれの願いは早慶戦が再開されないうちは本当の学生柔道復活ではないと考えていた。

しかし早慶共先輩方の中には時期尚早との意見もあったが学生同志で数回寄合って話をした。そのうち私の品川駅前の下宿橋家旅館で井物をたべながらやったことも何度かあった。早稲田は秦君（現中部電力）と滝本君（現サンケイ新聞）等であった。学生の考えは二つあった。第一は過去に四回早慶戦が行われ読売新聞社が後援をしている。しかしいまでは決して積極的ではない。従って全日本学生東西対抗等を後援している毎日新聞社にのりかえようと云うものである。第二は戦後はすべての出直しである。過去は棄て去ろう。依って名称は復活第一回としようと云うのである。新しい考えだが、単純で若い学生の独走であった。しかしその時は得意になって師範先輩に説明をし準備に入ろうとしていたのである。その時早稲田側から連絡があり先輩の読売の赤松さんから早慶キャプテン、マネジャー揃って来る様にとのことだから一緒に行って呉れと云って来た。別段大して気にもしないで読売新聞社の赤松さんのデスクを尋ねた四人、当方は私と鈴木昇君だったと思う。開口一番大きな声で『君たち何かゴソゴソやっている様だが、早慶戦は元々読売でやって来たことだ。何んでおれに相談せぬか、小細工はやめる。歴史伝統とはそう云うもん

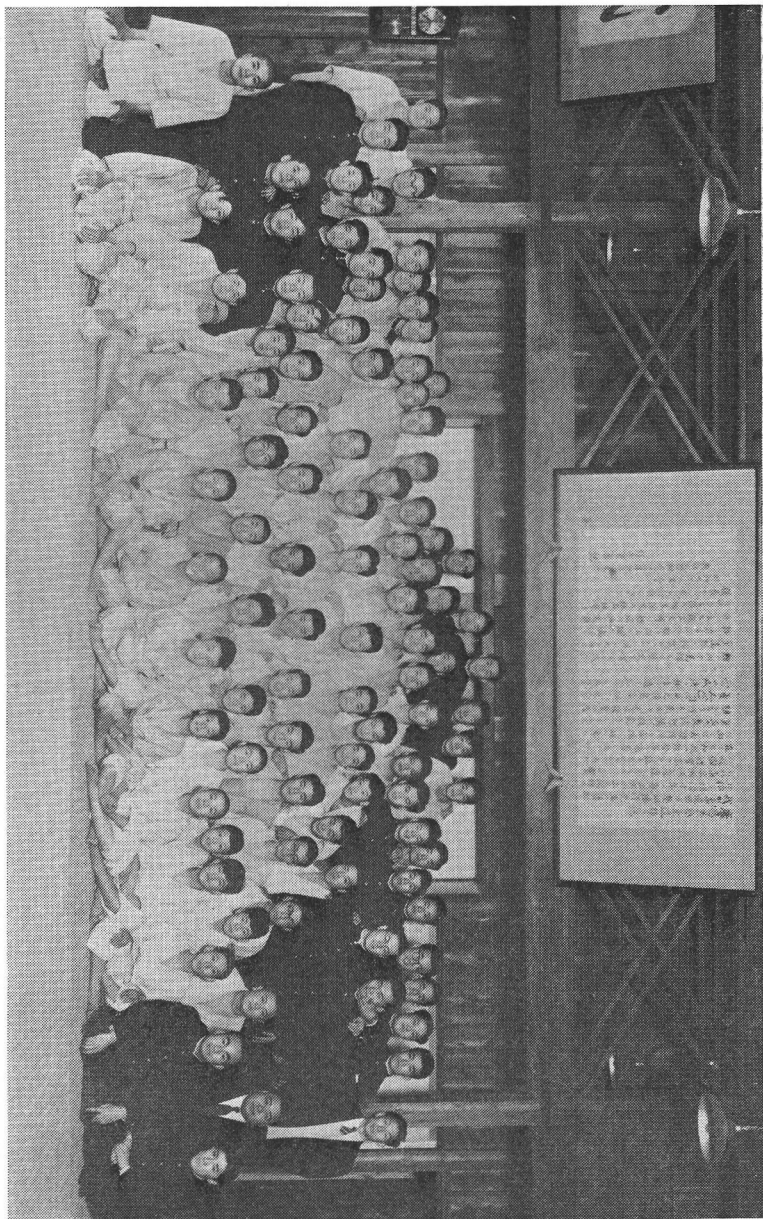
だ。名称も第五回、今迄通りを継承する。それで準備にかかれ」とどなられ説教を喰ってチョン。勿論どなられたのは主として秦君と滝本君である。『済みません、わかりました』の一言で十年振り早慶戦は第五回となり読売新聞後援に決った。つまりこれで名実共に復活したのであった。四人は赤松さんからカツライスかなんかをごちそうになっ
てすっかり気分をよくして帰った。私はいまでも似た様なことに会おうと必ずこのことを想い出す、大きな人生の教訓として残っている。

それで、対抗試合について当時正直言つて慶応側が今度こそは歩があると云うことはひそかに信じられていた。中堅どころは早稲田が充実していたにしても、慶応は上下共にバランスのとれた布陣として有利なことは事実であった。ところが期待のヌキ役が次々と止められ予想に反した無念の失点（その中に私の二人目の不覚も入っている）で早稲田三名を残され敗北を喫したのである。

みんな茫然として綱町に帰った。祝勝会の予定はお通夜の様に一変した。泣いた。そしてヤケ酒を求めて道場から散って行った。翌日みんな坊主になって先輩にあやまった。萩原（現姓関正夫）、死んだ乾、そして一年生だった長戸、飯塚、広瀬らの坊主頭がいまでもありありと思ひ浮ぶ。私はフランス行があつて大使館に行きつたり外人に会うために坊主にならなかつたと記憶する。

しかしこの第五回早慶戦の敗戦はこれだけ部員に強烈な屈辱と反撥を与えたので、のちに三勝一引分となつて早稲田を抑えた。私はその誇らしい知らせをいづれも異国できいた。この年に共に泣いた仲間の合宿中の寄書もまたフランスで受取った。健闘を遙かに信じ柔道は次第に私とは遠いものになつて行つたかの様に思われた。

さて昨年三田柔友会部史編纂室から連絡をいただいたのは私が郷里に帰つて四年、第三十四回衆議院議員選挙に立



昭和二十八年卒業生送別記念

候補の為運動中のことであった。何か戦後柔道部再建のことについてまとめよ、とのことであったが何しろすべてを忘れて飛廻っていた時の事である、心ならずも放置せざるを得なかった。今日落選浪々の身となって改めて内海先輩より私がかつて柔道部の資料記録をまとめていたのが大変役に立った『——将来にその伝統を伝えるべく多くの資料をまとめて残して居られた事は誠に先見に価するもので私の編纂作業に多大な御貢献を頂いたことと深く感謝致しますと共に当時その企画をされた貴君の御意図に対し敬意を吝まぬもので御座います。——』と過分なるお褒めをいただいた。凡そ四分の一世紀前のことである、私は新らたなる感激をもって筆をとることにした。

当時、いち早く塾柔道部の復活を可能にしたのはやはり飯塚道場至剛館の存在で、これは無視出来ない。荒廃した戦後の世相の中で清く潔よく存在した至剛館の歴史の詳細を私は知らない。大学より塾に入學した私は同好会的ふん囲気は良いが部は部としてのその形態を早くつくらねばと願う気持が強かった。と云うのも二十五名の選手を集めるのに慶応高出身以外は私と同じ新潟高後輩の吉川文雄君（白根市、自営）と私が勧誘して入部させた高井邦夫君（長岡高、野村証券）の三君だった。私は優秀高校選手の受験で何んとか良き塾柔道の強化を願う為に地方出身の者や私の下宿に宿泊させ、その後の受験合宿のはしりみたいなこともしていた。柔道部の資料を私自身の興味からか集めて見たのもこの頃であったかと思う。結局私の年度では部報をつくるにとどまったが、われわれは極めて意欲的な学生だったのかも知れない。

しかし遠くなった筈の柔道とのつき合いは、その後も続いた。柔道がオリンピック種目となり私の在欧経験が少しは役に立ったこともあった。雀百まで——やはり時には稽古着をきて稽古をする。やれば試合に出なくなる。一昨年

は北信越高段者大会六段之部（於富山市）で一勝一引分で警察教師と五分にわたり合った？『まぐれですよ』と笑われる。『バカお前だって寒稽古に皆勤だと云っても上の方から数えて何人目か？随分オジイになったじゃないか』とひやかすのである。ふと考えると私の柔道歴は、むしろ慶応後が多彩だったかとも思う。慶応の時はいいとこなかった。何よりも早慶戦の時の不覚の背負投、試合場規定がはっきりしていなかった為だとぼやいてもこれだけは私の青春の一頁に強く自責の念を彫み込んだ想い出である。しかし早稲田の藤田君、私の愛すべき後輩の吉川文雄君は必死で雪辱を期したが遂に引分けだったとき。君には遂に借りを返せなかったか。こんな想い出が青春の日の早慶柔道である。

役員

部長	橋本孝
師範	清水正一
監督	羽鳥輝久
主将	福田満
幹事	高井邦夫
幹事	宮崎剛
幹事	萩原正夫
マネジャー	鈴木昇
本部委員	熊切昭男
塾内委員	田坂彰敏
サブマネジャー	野上幸男
サブマネジャー	乾俊夫
高校監督	熊切昭男
普通部監督	宮崎剛
中等部監督	萩原正夫

寒稽古

一月十二日より二週間 於 綱町道場
柔道部復活第三回目、恒例の寒稽古が午前六時から行

われ、連日、先輩、現役百数十名の出席をみた。特に本年は大阪警視庁から師範香原先生、岡本先生を始め五名の猛者連もお見えになり、さしもの百十九畳の綱町道場もせまく二部に分けて稽古する有様、部員の意気込みたるやすさまじきものがあつた。

後半二十日からは昨年末以来病床に就かれていた清水師範が病後の御身体をおして道場に見え部員一同の顔には明るくものが見え、志気は更に倍加され、七十八名の皆勤者と五名の精勤証受賞者を出し、先輩の御好意に依る吉例汁粉会を以って無事二週間の寒稽古を終了した。

精勤証受賞者

高 校 山際正明、伊藤照彦
普通部 佐々木真一郎、檜山 治、豊永 勝

進級月次試合

一月二十四日

無級・九級・八級

1 織田芳彰	大内刈	○島津武久
2 島津武久	引分	鈴木啓之
3 ○鈴木啓之	袈裟固	日下
4 ○鈴木	支釣込足	守谷和剛
5 ○鈴木		萩野貞夫

11	小野喜也	体落	○佐々木真一郎
12	佐々木真一郎	引分	小沢
13	小沢	足弘	○榎山
14	榎山	返技	○伊藤
15	伊藤	内股	○宗宮直行
16	宗宮直行	背負投	○藤間哲也
17	藤間哲也	背負投	○頭山統一

体育会功労賞選手章受章者

功労賞受賞者

成毛雅臣、友田次亮、太田伸児、稲田敬

選手章受章者

成毛雅臣、友田次亮、稲田敬、太田伸児、松本功

上村昌道、石井清隆、丸山照雄、佐々木照正、腰山将武

大阪遠征合宿

四月 於 大阪警視庁機動隊寮

新年度に入るや、多年部の再建、後輩の指導に尽力された成毛主将を始め十名の部員を三田山上より社会に送り、少なからざる寂寥を感じたが、新たに進学せる新鋭の健児を迎えて、新興の気運も道場内に溢れ、ここに試

合経験を豊富にする為遠征合宿を計画、先輩の御骨折りで大阪警視庁機動隊寮に合宿、同柔道部と合同稽古を積み、大阪警視庁、京都市警の二試合を行い、帰京した。(試合記録の保存なし。)

進級月次試合

四月二十五日

審査

八級へ 佐藤孝之、守谷和剛、鈴木謙二郎
九級へ 上野定男、青木一幸

九級・八級

1	萩原貞夫	合技	永岡秀昭
2	萩原徹	引分	内田
3	内田	合技	○島津武久
4	○島津武久	合技	日下森介
5	島津	合技	○別府仁
6	別府仁	引分	鈴木啓之
7	鈴木啓之	弘巻込	○朝倉実
8	朝倉実	引分	○昆野誠司
9	○昆野誠司	引分	大熊国之
10	大熊国之	優勢	○飯野紀夫
11	大熊	跳腰	○後宮茂樹

初段之部

田中浩司(経二) 第三回戦にて敗退
鈴木澄夫(経三) 第一回戦にて敗退

段外之部

竹内正和(経三) 決勝にて伊藤(東大)を破り優勝
久保雅義(経一) 準決勝にて敗退

進級月次試合

五月二十三日

丙組・乙組

1	後藤 一太	合技	○森岡 謙二
2	森岡 謙二	優勢	○岩瀬 康平
3	○岩瀬 康平	合技	○本重 栄一
4	岩瀬 康平	大内返	○松吉 賢三
5	松吉 賢三	崩上四方	○有田 謙一郎
6	有田 謙一郎	引分	○齋藤 栄二
7	齋藤 栄二	崩裂婆	○岩田 嘉行
8	○岩田 嘉行	優勢	○馬目 広道
9	岩田 嘉行	崩上四方	○小倉 英夫
10	小倉 英夫	崩上四方	○塚田 喜章
11	○塚田 喜章	優勢	○齋藤 晴夫
12	塚田 喜章	優勢	○漆山 孝

六級

1	○和田 弘	大内刈	岩瀬 順介
2	○岩瀬 順介	小外刈	加藤 順介
3	○関 栄次郎	引分	本重 栄一
4	○真島 武	引分	森岡 謙二
5	西村 正夫	引分	後藤 一太
6	○阪井 光三	引分	後藤 一太

五級・四級

1	小磯 忠昭	大外刈	○平柳 邦生
2	平柳 邦生	引分	○阿部 大助
3	○阿部 大助	跳腰	川上 堅吉
4	阿部 大助	引分	早川 鉄三
5	早川 鉄三	引分	渡辺 明治
6	渡辺 明治	合技	○橋本 光蔵
7	○橋本 光蔵	小内刈	鈴木 正道
8	橋本 光蔵	引分	鈴木 正道

○福田 満(4) 合技 武田
 大将 ○宮崎 剛(4) 横四方 大将 大井
 第2回全日本学生柔道優勝大会東京代表出場校は本ト
 ーナメントの結果、本塾の他、早大、明大、法大、教
 大、拓大、日大、中大の八校と決定した。

第二回東京学生柔道優勝大会

六月十四日 於 警視庁体育館

第一回戦にて五段三名を擁する教育大学と対戦、乾二
 段、新四段熊切の奮闘空しく、二点先取した教大の副
 将、大将の引分け作戦にかかり、2対2の同点ながら、
 大会規定による一本十点、優勢勝八点の為、20対18で惜
 敗した。なお教大は準決勝にて中大を3対2で破ったが
 決勝戦にて明大に6対0にて敗れた。

本塾 2(18) — (20) 2 教育大
 先鋒 田坂 昭(2) 引分 先鋒 吉野(2)
 高井 邦夫(2) 内股 ○黒川(2)
 ○乾 俊夫(2) 優勢 恩田(2)
 萩原 正夫(2) 内股 ○小玉(3)
 ○熊切 昭男(4) 横四方 樋口(5)
 福田 満(4) 引分 飯田(5)

大将 宮崎 剛(4) 引分 大将 和村(5)

第二回神奈川県高等学校柔道大会(全国大会予選)

六月二十一日(日) 午前九時より

於 平塚江南高校

五十数校が参加三校リーグの勝利校によりトーナメン
 トを行い、本塾高校A、Bチームが断然の強さを見せて
 勝ち進み決勝戦で対戦、Aチームが快勝して昨年に引続
 いて選手権を獲得すると共に神奈川県代表として全国大
 会への出場権を獲得した。

準決勝

慶応高校A 3 — 1 逗子開成
 先鋒 ○福田 靖与 肩固 先鋒 下里
 ○稲田 詢 大外落 田中
 頭山 統一 引分 松野
 鈴木 一男 跳腰 ○金子
 大将 ○山際 正明 崩上四方大将 山口
 慶応高校B 4 — 1 厚木B
 先鋒 ○檜山 治 先鋒 町山
 ○橋本 光蔵 神名
 伊藤 照彦 ○島村
 ○木下 高橋

塾は緒戦に関西の雄関大と対戦、平素の力量發揮し得ずして敗北を喫した。

本塾 1 — 3 関西大学

先鋒	乾	俊	夫(2)	引分	先鋒	林	田(2)
田坂	昭	体	落	〇山	村	(2)	
萩原	正	夫(2)	崩上四方	〇三	浦	(3)	
長戸	英	夫(2)	崩上四方	〇菱	山	(3)	
〇熊切	昭	男(4)	燕返	藤	勝	(3)	
宮崎	剛	剛(4)	引分	原	田	(3)	
大將	福田	満(4)	引分	堀	田	(3)	

進級月次試合

七月六日

審査

1	〇木村	洋	上四方	手塚	長男
2	榊田	政治	大内刈	〇浜野	
3	江沢	讓	優勢	〇木村	洋
4	木村	洋	引分	福田	隆一
5	川鍋	朗	上四方	〇加藤	
6	〇森田	一	大外刈	加藤	
7	〇埋金	鐘存	大外刈	和	田
8	大谷	正賢	優勢	和	田
9	菅佐原	由雄	上四方	〇木村	洋

丙

10	森岡	引分	引分	福田	隆一
11	小岡	引分	引分	江沢	讓
12	〇馬目	合技	合技	埋金	鐘存
13	〇森岡	送襟紋	送襟紋	森田	
14	齋藤	優勢	優勢	菅佐原	
15	〇小林			岡田	

乙

1	茶木原	引分	引分	加藤	順介
2	加藤	大外巻込	大外巻込	和	田
3	〇和田	内股	内股	〇和	田
4	和田	引分	引分	浅川	正幸
5	〇浅川	合技	合技	本重	栄一
6	浅川	送襟紋	送襟紋	〇野沢	真一郎
7	野沢	崩上四方	崩上四方	〇岩崎	
8	岩崎	崩上四方	崩上四方	〇岩瀬	安正
9	岩瀬	引分	引分	小林	
1	〇小林	支釣込足	支釣込足	大	谷
2	小林	引分	引分	秋山	
3	秋山	崩上四方	崩上四方	〇馬目	広道
4	馬目	引分	引分	森岡	謙二
5	森岡	内股	内股	〇関	栄二郎

六・五・四級

甲

8	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6
岩	○岩	小	萩	川	矢	○矢	萩	○小	○小	木	木	明	奥	○奥	松	○松	真	関	○関
上	上	野	原	上	沢	沢	原	倉	倉	下	下	神	田	田	吉	吉	島		
	寛	英	正	堅		頼	正		英		健	敏	夫	清		賢	武		榮
	治	之	光	吉		道	光		夫		健	夫		一		三			二
引		大内刈	優勢	引分	袈裟固	背負投	引分	崩上四方	背負投	優勢	背負投	背負投	弘巻込	優勢	引分	優勢	引分	背負投	弘腰
分																			
池	寺	○岩	○小	○萩	○川	小	矢	浜	漆	○小	手	○木	○明	村	奥	齋	松	○真	有
上	田	上	野	原	上	磯	沢	野	山	倉	塚	下	神	松	田	藤	吉	島	田
壯	緇太郎	寛	英	正	堅	忠	頼	充	孝	英	長	健	敏	紀民夫	清	晴	賢	武	謙
一郎		治	之	光	吉	昭	道	功	孝	夫	男	健	夫	夫	一	夫	三		一郎

三

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	13	12	11	10	9
○伊	鈴	○鈴	鍋	鈴	田久保	橋	○橋	○橋	豐	○豐	星	○星	小	○小	○檜	平	渡	早	池
藤	木	木	田	木	俊	本	本	本	永	永	野	野	野	野	山	柳	辺	川	上
照		正	剛	正	夫			蔵		勝		敬		喜	洽	邦	明	鉄	壯
彦		毅		道										也		生	治	三	一郎
大外返	大内刈	合技	横四方	引分	引分	引分	合技	大内刈	引分	跳腰	弘腰	一本背負	横四方	送襟絞	優勢	袖釣込腰	引分	引分	引分
宗	○伊	○小	○鈴	○鍋	○鈴	田久保	紀	佐	橋	坪	○豊	○山	○星	横	阿	○檜	平	渡	早
宮	藤	沢	木	田	木	俊	内	藤	本	田	永	崎	野	倉	部	山	柳	辺	川
直	照	貞	正	剛	正	夫	良	安	光		慎		永	永	大	邦	明	鉄	三
行	彦	夫	毅		道		介	太郎	蔵	稔	勝	之助	敬	一	助	治	生	治	三

夏季稽古(大学)

七月〜八月

全日本学生柔道優勝大会の不成績を挽回するには、ただただ一途に旧に倍する猛烈なる稽古と、それに依る「勝たんかな」の気迫の養成あるのみと、今夏は全員一丸、一ヶ月間の講道館暑中稽古に参加、秋に行われる復活早慶戦を前に、ひたすら栄冠を担うべく黙々精進を続けた。また八月二十二日から二十九日迄特に中堅陣(初段・二段陣計十一名)の強化を狙いに先輩の絶大なる御支援により、鐘紡住道工場、鐘紡中島工場、山内先輩宅に分宿しての関西合宿を行い、鐘紡住道工場、鐘紡中島工場、大阪機動部隊等で稽古と試合に励んだ。

早慶對抗柔道戦復活確認打合せ

七月七日

慶早両校の師範、先輩、現役が一堂に参集、定期戦規約を確認、読売新聞社の後援に依り講道館に於て毎年十一月第四日曜日選手二十五名にて行う等を決定して本年より復活する事となった。

第二回全国高等学校柔道大会

七月二十五、六日 於 大阪体育会館

神奈川県代表として出場した本塾高校は予選リーグに勝ち残り、トーナメントに進出、予選リーグ第二戦で大將頭山腕を脱臼欠場もあつて決勝トーナメント第一戦にてダークホース豊岡高校に破れたものの、代表選手の健闘は目を見はるものがあり、主將山際正明二段は技術優秀選手に選ばれ、将来を楽しました。

第一日予選リーグ

慶応高校 5 — 0 飯田高校(石川県)

先鋒○鈴木一男 跳腰 先鋒 谷内

○檜山 治 釣込腰 蟹

○山際正明 大外刈 中沢

○福田靖与 袈裟固 新島

大將○頭山統一 背負投 大將 一富

慶応高校 2 — 0 都城都島高校(宮崎県)

先鋒 鈴木一男 引分 先鋒 高坂

檜山 治 引分 野間

○山際正明 判定 利屋

○福田靖与 崩横四方 末原

大將 頭山統一 痛分 大將 入来

第二日決勝トーナメント

慶応高校 2 — 3 豊岡高校(兵庫県)

先鋒 鈴木一男 判定 先鋒○田中

○檜山 治 釣込腰 藤井

○山際 正明 小外刈 富森

福田 靖与 釣込腰 ○橘

大将 豊永 勝 背負投 大将○中田

普通部・中等部山中湖合宿

八月四日～九日 於 体育会山中山荘

参加者は普通部柔道部長朝岡正夫先生、普通部部員五名、中等部生三名、それに指導にあたる大学生宮崎、蜷川、萩原、乾、高松、金成、臼井の七名。日課は概ね次の通り。

起床 六時
 駆走 一時間
 朝食 八時
 自習 九時～十時
 練習 十時～十一時半
 昼食 十二時
 自由時間 一時～三時
 練習 四時～五時
 風呂

夕食 六時

自由時間 七時～九時半

消燈 十時

本塾対鐘紡對抗試合

九月二十二日 於 鐘紡東京工場

鐘紡は東京工場・南千住工場の連合軍。対する本塾は四段二名を抜き、中堅陣の試合経験を豊富にすべく出場させたが、大将以下2名を残して本塾の勝。

本塾 鐘紡

先鋒	○横倉 永一	弘腰	先鋒	下妻
横倉	鍋田 剛	弘腰		○松木
鍋田	鍋田 哲也	内股		○松木
鍋田	藤間 哲也	袈裟固		○佐藤
藤間	藤間 哲也	縦四方		佐藤
藤間	藤間 哲也	優勢		大越
藤間	藤間 哲也	内股巻込		大山
藤間	藤間 哲也	大外返		○森
藤間	藤間 哲也	袈裟固		○森
藤間	藤間 哲也	背負投		森
関	関	優勢		篠田

乾	田	高	遠	○	鈴	小	竹	河	○	堀	○	河	○	水	○	水	○	久	久	○	久	久	関
俊	坂	井	藤	藤	木	川	田	合	○	越	○	内	内	藤	藤	瀬	瀬	木	保	保	保	保	
夫	昭	夫	春	昇				靖	之	義	清	三	郎	也	誠								義
(3)	(3)	(2)	(2)	(2)				(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
引	内	引	燕	絞	跳	跳	引	内	崩	大	横	崩	縦	合	内	引	合	大	十	一	内	小	
分	股	分	返	枝	腰	腰	分	股	上	内	四	上	四	技	股	分	技	外	字	本	股	内	
									四	返	方	方	方					刈	逆	背		刈	
堀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内	堀	柿	柿	高	高	高	渡	渡	黒	黒	河	河	伊	伊	相	栗	岡	岡	岡	植	大	大	
(4)	(4)	(4)	(4)	(3)	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	

乙

丙

8	7	6	5	4	3	2	1	組	9	8	7	6	5	4	3	2	1	組	進級月次試合	大将	萩原正夫(3)
松	和	岩	浅	川	森	磯	島		○	加	佐	○	森	本	川	川	森		熊切昭男(4)		
吉	田	瀬	川	端	岡	沼	田	田	田	藤	藤	藤	田	重	鍋	鍋	田				
賢		安	正	修	謙	輝	篤	篤	順	善	之	洋	栄	一		達	洋				
三	弘	正	幸	二	二	男	宏	宏	介			典			朗	典					
引						引	引						引	引		引					
分						分	分						分	分		分					
	○	○	○	○	○	○			○	○					○	茶	川				
	松	和	岩	浅	川	森	磯		福	島	加	後	佐	森	本	木	鍋				
	吉	田	瀬	川	端	岡	沼		原	田	藤	藤	善	田	重	原	達				
	賢	安	正	修	謙	輝	輝		一	篤	順	太	之	洋	栄		朗				
	武	三	弘	正	幸	二	男		雄	宏	介			典	一						

十月三日

				九・八・七・六級				審査				甲組					
4	3	2	1	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1	11	10	9
藤	丹	丹	丹	高	田	高	松	漆	馬	手	奥	明	明	関	齋	岩	真
田	羽	羽	羽	田	北	木	吉	山	目	塚	田	神	神		藤	崎	島
尚							省		広	長	清		敏	栄	晴	駿	
徳				垣		三		孝	道	男	一	夫	郎		夫	介	武
	引				引							引	引			引	
	分				分							分	分			分	

○富	藤	高	北	青	川	藤	野	○木	○漆	○馬	○手	○奥	○浜	○明	○秋	○齋	○岩
士	田	木	竹	山	上	田	沢	村	山	目	塚	田	野	神	山	藤	崎
	尚			隆	尚	俊	夫			広	長	清	充	敏		晴	駿
健	徳			健	三	徳	夫	洋	孝	道	男	一	功	夫	夫	介	

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
○白	○白	○白	阿	小	小	小	古	松	田	松	松	渡	渡	渡	渡	渡	渡	渡	渡	石	山	富
川	川	川	部	林	林	林	森	吉	北	原	原	辺	辺	辺	辺	辺	辺	辺	井	本	士	健
			智			浩	義	省		軍								芳				
			一	応		一	久	三		治									和	彰		健
				引					引	引	引								引	引		
				分					分	分	分								分	分		

下	小	堀	○白	阿	清	渡	○小	○古	○松	田	高	松	青	白	市	山	林	峰	渡	渡	○石	山
村	野	寺	川	部	水	辺	林	森	吉	北	田	原	山	岩	田	田		岸	辺	辺	井	本
			為	智		紀	浩	義	省		軍						潤		芳		彰	
			義	一	応	久	一	久	三	垣	治	健				一		勉	和		彰	

五・四・三級

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	35	34	33	32	31	30	29	28
渡	佐々木	平柳	○平柳	川上	岩上	○岩上	寺田	奥野	小野	池上	矢沢	小磯	萩原	朝倉	鈴木	飯野	伊藤	○伊藤	○伊藤	白川
明	真一郎	邦生	邦生	堅吉	寛治	寛治	緒太郎	燕児	英文	荘一郎	頼道	忠昭	正光	実光	啓之	紀夫	夫			毅
引				引				引	引					引	引	引	引			
分				分				分	分					分	分	分	分			
	○渡	○佐々木	○早川	○平柳	○川上	○阿部	○岩上	○寺田	○奥野	○小野	○池上	○矢沢	○小磯	○萩原	○朝倉	○鈴木	○飯野	○沢野	○萩野	○伊藤
小倉	辺	々木	川	柳	上	部	上	田	野	野	上	沢	磯	原	倉	木	野	野	野	藤
英	明	真一郎	鉄三	邦生	堅吉	大助	寛治	緒太郎	燕児	英之	荘一郎	頼道	忠昭	正光	実光	啓之	紀夫	芳博	貞夫	毅
夫	治	一郎	三	生	吉	助	治	郎	児	之	郎	道	昭	光	光	之	夫	博	夫	毅

十月合宿(大学)

十月四日(日)〜十月二十六日(月) 於 綱町道場

一般に早大の優勢が伝えられる戦後復活第一回早慶対抗柔道戦を十一月に控えて、第一次強化合宿練習に入る。日吉組は漸く前期試験を終えての参加、又四年生は就職試験の真最中であつた。通常の日課は六時起床、トレーニング(体操、駄足、兔跳び、腕立等の補助運動)以降三時迄授業参加、三時より六時迄練習、七時夕食、十時消燈。なお合宿中、対三田、高輪警察対抗試合、対日本鋼管、浅野船架対抗試合、対国学院大学対抗試合の三練習試合を行い早慶戦に備えて試合勘を養つた。第一日目よりの合宿参加者は次の通り。

四年 福田、小川

14	小倉	英夫	○山崎	慎之助
15	○山崎	慎之助	大谷	照
16	○山崎	慎之助	小沢	貞夫
17	山崎		○鈴木	正毅
18	鈴木	正毅	○横倉	永一
19	横倉	永一	長沼	徹
20	○長沼	徹	峰岸	弘夫

三年 宮崎、熊切、田坂、乾、萩原、河合、蛭川、水

藤、竹内、宗宮、横倉

二年 吉川、高松、田中、金成、堀越

一年 飯塚、広瀬、久保、藤間、木村、長戸

本塾対三田・高輪警察対抗試合

十月十日一時三十分より 於 綱町道場

三田高輪警察

先鋒 ○横倉 永一 大内返 先鋒 松原

横倉 引分 古川

木村 大外刈 ○伊藤

坪田 背負投 ○伊藤

関 引分 伊藤

○藤間 哲也 大腰 大野

藤間 引分 尾竹

○鈴木 澄夫 縦四方 松崎

鈴木 弘腰 ○久木田

久木 引分 久木田

久保 内股 ○森島

広瀬 引分 森島

金成 引分 新国

宗宮 内股 ○山中

竹内 正和 引分

○飯塚 基(2) 出足 弘

○長戸 英夫(2) 引分

○長戸 英夫(2) 肘関節技

長戸 引分

○田中 浩司(2) 引分

○高松 静男(2) 優勢

○高松 静男(2) 大外刈

高松 優勢

○河合 靖之(2) 縦四方

河合 引分

水藤 三郎(2) 跳腰

堀越 忠義(2) 引分

鈴木 昇(2) 引分

○竹田 背負投

竹田 崩袈裟

小川 引分

○高井 邦夫(2) 大外刈

○高井 邦夫(2) 縦四方

高井 引分

○吉川 文雄(3) 引分

○乾 俊夫(3) 腕擲

山中 引分

今井 引分

青島 引分

馬場 引分

○佐々木 引分

○篠原 引分

○佐藤 喜(2) 引分

○佐藤 喜(2) 引分

○鈴木 光(2) 引分

○守屋 引分

○土屋 引分

土屋 引分

池田 引分

○香宗我部 引分

○鈴木 貞(2) 引分

鈴木 引分

○小林 引分

○佐藤 満(2) 引分

佐藤 引分

君島 引分

○鈴木 引分

○深川 引分

○松本 引分

○乾 優勢 大将 成田(3)
 田坂 昭(3)
 萩原正夫(3)
 福田滿(4)
 熊切昭男(4)
 宫崎刚(4)
 大将

本塾対日本鋼管・浅野船架对抗試合

十月十四日 於 日吉道場

本塾

先鋒 ○飯塚 国基(2) 内股返 先鋒 吉田(初)
 ○飯塚 優勢 松本(初)
 飯塚 釣込腰 ○高橋(2)
 大外刈 ○高橋(2)
 長戸英夫(2) 大外落 ○荒川(2)
 長戸 大外刈 ○荒川
 高松静男(2) 釣込腰 ○荒川
 河合靖之(2) 引分 ○山下(2)
 堀越忠義(2) 内股 ○山下(2)
 小川(2) 引分 山下(2)
 高井邦夫(2) 横四方 西村(2)
 高井 引分 佐藤(2)
 萩原正夫(3) 優勢 坂本(3)

本塾対国学院大学对抗試合

十月十七日一時半〜三時十五分 於 綱町道場

本塾

先鋒 ○佐藤 佐藤 釣込腰 先鋒 佐野 国学院大
 佐藤 送襟絞 ○金沢
 友田 大腰 ○金沢
 横倉永一 体落 ○大野
 横倉 優勢 ○大野
 藤間哲也(初) 内股 大野
 藤間 引分 大森(初)
 藤間 大外刈 田中(初)
 関(初) 背負投 ○横田(初)

大将 ○宫崎 崩上四方 吉川(5)
 熊切 引分 江森(4)
 ○熊切 崩上四方 長谷川
 福田 大内返 ○長谷川(3)
 乾俊夫(3) 釣込腰 ○長谷川(3)
 田坂昭(3) 引分 高梨(3)
 吉川文雄(3) 引分 白橋(3)
 萩原 小外刈 ○白橋(3)

水	河	越	田	長	○長	○長	飯	○飯	金	広	○広	○広	鈴	○鈴	宗	久	○久	○久	久	○久	○久	○久	
藤	合	川	中	戸	戸	戸	塚	塚	成	瀬	瀬	瀬	木	木	宮	木	木	木	保	保	保	保	
三	靖	謙	浩		英	夫	国	基	禮	徵		久	澄	直			誠					雅	
郎	之	一	司		(2)		(2)	(2)	徼	(2)		也	夫	行			徼					義	
(2)	(2)	(2)	(2)						(2)			(2)	(2)	(2)			(2)					(2)	
					引	大	優	引	送	引	引	小	背	優	釣	大	合	崩	合	内	合	返	横
					分	外	勢	分	足	分	内	負	勢	込	外	技	上	股	枝	枝	枝	枝	四
					大	刈			私		刈	投		腰	返	方							方
					将																		
					木	大	佐	金	小	武	金	堀	中	○中	古	○古	○古	村	大	○大	野	三	横
					村	井	藤	子	松	田	子	内	村	村	屋	屋	屋	田	島	大	地	木	田
					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(次	(2)	(2)	(2)				(2)		(2)	(2)	(2)	(2)
)												

乙

丙

7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1							
斎	鈴	○鈴	河	岩	森	後	組	○後	明	○明	○明	佐	○佐	岡	○岡	○岡							
藤	木	木	端	崎	岡	藤		藤	石	石	石	藤	藤	田	田	田							
栄	英	孝	充	介	謙	一		一		祥	正	善	之		彰	夫							
二	一	充	介	二	太	太		太															
引	引	引	引	引	引	引		引				引	引	引	引	引							
分	分	分	分	分	分	分		分				分	分	分	分	分							

進級月次試合

大将 堀越忠義(2)
高松静男(2)
高井邦夫(2)

十月二十八日

川	○齋	○有	○鈴	○河	○岩	○森		○森	○後	竹	加	明	足	佐	本	出							
鍋	藤	田	木	端	崎	岡		田	藤	内	藤	石	立	藤	重	康							
達	栄	謙	英	孝	駿	謙		洋	一	利	順	晓	善	栄	良								
郎	二	一	充	介	介	二		典	太	夫	介	正	則	之	一								

九

甲

級	8	7	6	5	4	3	2	1	組	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
	関	友	齋	○齋	松	馬	浜	塚		大	小	磯	○磯	和	○和	○和	野	○野	岩	島	川
	田	藤	藤	晴	吉	目	野	田		滝	野	沼	沼	田	田	田	沢	沢	瀬	田	鍋
	栄	昌		夫	賢	広	充	喜		英			輝					真	安	章	達
	一	利			三	道	功	章		之	瀨		雄			弘		一	正	平	郎
	郎									輔								郎			
	引	引	引				引	引		引	引			引							
	分	分	分				分	分		分	分			分							
	峰	関	友	○漆	○齋	馬	浜			塚	大	○小	岩	磯	福	大	○和	○野	○岩	○島	
	岸	田	山	藤	松	目	野			田	滝	野	佐	沼	原	西	田	川	瀬	田	
	輝	栄	昌	晴	賢	広	充			喜	英	八	八	輝	一	弘	正	真	安	章	
	夫	一	利	夫	三	道	功			章	之	瀨	郎	雄	進	弘	行	一	正	平	

八

級	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	級	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	○島	○鈴	○鈴	○鈴	○鈴	○鈴	飯	○飯	富	丹		永	小	永	○永	○永	○永	○永	堀	阿	○阿	○阿
	津	木	木	木	木	野	野	野	士	羽		岡	野	田	田	田	田	田	部	部	部	部
	武					啓	紀	健		竜		秀	賢					昌	為			智
	久					之	夫	二				昭	澄					久	義			応
							引	引					引	引					引	引		
							分	分				分	分						分	分		
	○加	○島	松	古	小	沢	鈴	○飯	富			○萩	永	小	川	渡	藤	野	永	堀	青	山
	藤	津	吉	森	林	木	木	野	士			野	岡	野	上	辺	田	田	田	部	山	田
		武	省	義	浩	芳	啓	龍	紀			貞	秀	賢	隆	紀	尚	俊	昌	為	健	吉
	昇	久	三	久	一	博	之	二	夫	健		夫	昭	澄	三	久	徳	夫	久	義	介	隆

										審				七・六級								
										査												
3	2	1	五・四・三・二級			6	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
○岩	池	小				藤	○久保島	○吉村	野	○矢	○佐藤	矢	上	上	上	今	白	朝	大	阿	○阿	
上	上	野				田			沢	沢	藤	沢	原	原	原	城	川	倉	熊	部	部	
寛	壯	英							俊	孝					惟			国		俊		
治	一郎	之						大外刈	雄	和	之	和			道	伝	一	実	之	之		
		引	引							内		引										
		分	分							股		分										

小	岩	池	○			山	中	吉	佐	菊	小	○	萩	柿	上	○	○	○	○	○	渡
野	上	上				野	田	村	村	藤	磯	沢	原	本	原	城	川	倉	熊	大	渡
英	寛	壯							孝	地	忠	正	亮	惟					国	芳	和
之	治	一郎						稔	之		昭	和	光	司	道	伝	一	実	之		

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
長	鈴	佐	○佐	鈴	小	小	○小	○小	○小	木	佐々木	○佐々木	渡	○渡	阿	早	平	寺	川	岩
沼	木	藤	藤	木	沢	倉	倉	倉	倉	下	木	木	辺	辺	部	川	柳	田	上	上
	正		安太郎	正道	貞夫				英夫	健		真一郎		明治	大助	鉄三	邦生	緒太郎	堅吉	
	徹	毅					引				引					引	引	引	引	引
	足	内	横四方		大外巻込															
	弘	股																		

○横	○長	○鈴	○山	○佐	○鈴	小	大	坪	永	○小	木	明	○佐々木	丸	○渡	阿	早	○平	寺	川
倉	沼	木	崎	藤	木	沢	谷	田	井	倉	下	神	々々木	山	辺	部	川	柳	田	上
永		正	慎之助	安太郎	正道	貞夫	照	稔	稔	英	健	敏	真一郎	士	明	大	鉄	邦	緒	堅
一	徹	毅								夫	夫	夫		美	治	助	三	生	太郎	吉

段外者紅白試合

秋季大会

大将

田坂	吉川	高井	竹田	小川	水藤	堀越	河合
昭(3)	久雄(3)	邦夫(2)	裕二(2)	浩二(2)	三郎(2)	忠義(2)	靖之(2)

縦四方

河本

十一月八日 於 綱町道場

紅

白

先鋒 家中

先鋒 柴田

藤田尚徳	野沢俊夫	関根隆範	阿部智応	清水	銀川	植村剛太郎	家中	家中
------	------	------	------	----	----	-------	----	----

引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分
----	----	----	----	----	----	----	----	----

○渡辺紀久男	川上隆三	杉浦潤	島田(辰)	松下	松下	松下	植村健次郎	植村健次郎	柴田
--------	------	-----	-------	----	----	----	-------	-------	----

○渡辺芳和	○渡辺	○別府	○飯野	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○佐藤	○荻野	○松原	○沢軍次	○古森	○古森	○清水	○片岡	○片岡	○鈴木	○鈴木	○鈴木
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

引分	引分	引分
----	----	----

○福沢	○上原	○上原	○上原	○上原	○島洋	○菊地	○朝倉	○加藤	○大熊	○永田	○白川	○白川	○白川	○高橋	○高橋	○岩崎	○岩崎(佳)	○小林	○石井	○上野	○下村	○渡辺
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	-----	-----

昇文

一

一

有段者紅白試合

河合靖之(2)	高松静男(2)	田守	山際	○山際正明(2)	鈴木直行(初)	宗宮	久保雅義(初)	福田靖与(初)	稲田詢(初)	星野敬(初)	橋本光藏(初)	豊永勝(初)	伊藤彦(初)	檜山治(初)	○檜山治(初)	先鋒河野	大将○長沼徹	渡辺明治
	引分	引分		引分			引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分				
○高井邦夫(2)	鈴木昇(2)	長戸英夫(2)	○長戸清	河内	小川	○小川浩二(2)	○小川三郎(2)	水藤	藤間哲也(初)	○藤間哲也(初)	広瀬久也(初)	久木誠(初)	関内(初)	竹内(初)	横倉永一	先鋒横倉永一	大将○横倉永一	鈴木正毅

别府	朝倉	○朝倉(7)	伊藤(7)	岩崎(8)	片岡	○片岡(8)	○片岡(8)	松下	富屋	○富屋	○富屋	○富屋	植村	先鋒植村	普通部	普通部对中等部戦	福田	○福田	熊切昭男(4)	竹田裕(2)
引分	乘榘	絞技	引分	引分	引分	合技	体落	引分	背負投	大内返	小外掛	合技	引分	先鋒					引分	引分
清水(6)	○清水(7)	阿部(7)	佐藤(7)	大熊(7)	飯野(7)	島津(7)	渡辺(8)	菊地(7)	○菊地(7)	白川(7)	松原(8)	沢原(8)	高橋(8)	中等部				○田坂	吉川文雄(3)	高井俊夫(3)
																		萩原正夫(3)	宫崎刚(4)	

加藤(7)

巴投 ○今城(6)

田中(7)

引分 今城

○柿本(6)

大外刈 頭山(6)

柿本

引分 大將 上原(6)

鈴木(6)

萩原(6)

小磯(6)

大將 奥野(5)

試合前の下馬評は六分四分で中等部に利があるとされていたが、普通部は前半のリードを保ち、十五名勝抜戦で大将以下四名を残して勝利を得た。これで普通部は戦後普中戦に三連勝を遂げた。

普通部、中等部の柔道部の現況

「普通部」 前部長野口先生が女子高に転任され、本年度より朝岡正夫先生を部長に迎えた。従来は綱町道場で稽古していたが、先生方の努力により本年より日吉道場で稽古出来るようになり、月曜と水曜を義務稽古日として、五十余人を数える部員が部長朝岡先生を初め、宮崎、蛭川両監督のもとに稽古に精進している。本年は寒稽古に八名の皆勤者を出したのを皮切りに、夏は山中合宿、又秋には部長、両監督以下部員親善旅行を油壺に行

う等、部員の結束を固め、今回の普・中戦には野球早慶戦当日や、日曜・祭日迄日吉道場で稽古に励んで備えたものである。

「中等部」 二十六年四月に正式に中等部柔道部が設置されて以来、横川克男先生を部長に仰いでいる。学校当局としては学生同志の接触による一貫指導にやや問題意識をもたれてはいたが、二十六年度の太田監督、二十七年度的の上村監督、本年度は萩原監督と大学生監督のもと、綱町道場で、清水師範並に大学生部員の指導を受け、本年度は夏季に普通部と合同の山中合宿に有志が参加、その後も八月末に普中戦に備えて二週間、綱町道場に於て練習を行った。

当時の柔道部報に掲載された「昭和二十八年度中等部卒業生一同」による感想文には次の如く部員諸君の熱意が記されている。

「普中戦後、我々は大いに反省して、三年生一同坊主となって冬休みになってからも道場に行つて練習に励んだ。一、二年生も大いに理解して多数参加し、毎日二十名を越える参加者のもと、お互いに技を磨いた。そしていよいよ寒稽古が始まると皆約束をやぶらずに毎日多数参加してついに皆勤証受賞者は十数名にのぼる好成績を

取めた。」

十一月合宿（大学）

十一月十一日（水）～十一月十九日（木）

早慶戦に対する最後の仕上げをなすべく、出場予定者二十五名と補欠五名を以って合宿に入る。合宿の通常日課は、七時起床、トレーニング（駆足、鬼跳び、腕立て等）朝食、午後四時～六時練習、九時門限、九時から二十分坐禅、十時就寝。なお、合宿中東西対抗が大阪で行われ、清水師範と出場選手福田、宮崎、熊切、萩原の四君が参加した。

試合前、十一月十七日の朝刊各紙には早慶対抗柔道戦下馬評が掲載され、各紙共塾の苦戦を報じていた。

第五回全日本東西学生柔道対抗試合並に

第五回全日本学生柔道選手権大会

十一月十四日（土）十五日（日）

於 大阪府立体育会館

本塾より選手として福田 満四段（経四）、宮崎 剛四段（政三）、熊切昭男四段（経三）、萩原正夫三段（経三）の四名が選抜され西下した。

東西対抗戦は東軍の総計一〇八段と西軍の総計七四段の差の如く東軍が圧倒的に強く30名対抗戦で大将和村五段以下十一名を残して三連勝した。

本塾出場選手の成績は次の通り。

△熊切昭男四段は東軍十四番に四段陣のトップに配され、三浦三段（関大）を横四方に固め、浜地三段（九大）と引分けた。

△宮崎剛四段は十七番に出場し原田三段（関大）を優勢勝に退け、菱山三段（関大）と引分ける。

△福田満四段は十九番に出場し、西軍大将堀田四段と引分け東軍三連覇を決定した。

選手権大会には前記三名に萩原三段を加えて四名出場し試合成績次の通り。

△福田満四段は四回戦迄進出、渡辺四段（法大）に僅差で敗れる。

△宮崎剛四段は二回戦で川島五段（日医大）に敗れる。

△熊切昭男四段は二回戦にて東軍の大将和村五段（教大）に敗れる。

△萩原正夫三段は三回戦迄進出、石橋四段（明大）に退けられた。

第五回早慶對抗柔道戦(復活第一回)

十一月二十二日(日)午後二時より 於 講道館

昭和十八年以来中断していた早慶對抗柔道戦は漸く機が熟して本年から講道館に於て復活されたが、本塾の連敗となった。昭和十五年の第一回から十八年の第四回までは両軍二十人の選手で対戦したが、今回は早大の強い要望があり二十五人で対戦することになった。百畳の大道場に富木、山本、大沢の三師範を迎え三〇〇人の部員を有する早大は有段者も七十名を越え、対抗戦に選手が多いことが一段と有利で、予想も早大の三段十二名、二段十二名、初段一名の方が塾の四段三名、三段四名、二段十四名、初段四名より優勢と云われていた。実力で上廻る早大に是が非でも一矢報いようと羽鳥先輩はじめ連日多数の先輩が御指導に來られて選手の技倆も一段と向上したが、二十五人の選手中、塾の高校からの進学者二十一名と云うことに対し早大の九名の一年生選手中七名の地方高校の有望新人を加えた陣容に比すると塾の地方高校からの入学者皆無は淋しい。

戦は手薄な塾の先鋒から中堅にかけて牧野(旭川高)、

小野塚(早実)、伊藤(若狭高)、国分(浜松高)、次郎丸(大分高)の早大新人に荒され、長戸、河内、高松、遠藤と反撃に出たが七人をリードされて三将熊切に渡された。熊切は釣込足に内股に三人抜いたが長身の結城に引分られ、副将福田は三浦を払腰に打ちとりながら左隅に追いつめた藤田を引き出そうとした際に大きく背負投にとられて退き、宿願は半ば夢となった。大将宮崎は藤田を得意の大外刈に破ったが十分間一度も技をかけぬ川畑の引分作戦には強引に放った大外刈も奏功せず引分られて早大に三人を残されて今年も敗れた。

審判員 富木謙治、清水正一、羽鳥輝久、大沢慶己

本 塾

早稲田

先鋒	竹内正和	優勢	先鋒	牧野欲	頼切
藤間哲也	引分			牧野	
鈴木澄夫	大外落			○小野塚	悦治(2)
○長戸英夫	引分			○小野塚	
久木誠切	引分			小野塚	
○長戸英夫	大外落			樋口高	明(2)
長戸	引分			片村陽一	(2)
鈴木昇	引分			長谷川高彦	(2)
田中浩司	大外刈			○伊藤	諦(2)

○福田	○熊切	○熊切	○熊切	○熊切	乾坂	田川	吉川	萩原	○萩原	堀越	高井	水藤	遠藤	○遠藤	河合	高松	○高松	小川	河内	○河内	飯塚	竹田
滿(4)			昭男(4)	俊夫(3)	昭(3)	文雄(3)	雄(3)	引分	正夫(3)	忠義(2)	邦夫(2)	三郎(2)	引分	千春(2)	靖之(2)	男(2)	二(2)		清(2)	基(2)	博(2)	
内股	引分	釣込足	内股	釣込足	大外返	引分	引分	引分	背負投	引分	引分	大外巻込	引分	大内返	優勢	上四方	大外落	送襟絞	逆十字	大外巻投	背負投	内股
三浦	結城	竹内	北崎	○柏木	○柏木	有田	塩沢	峠	佐藤	腰山	次郎丸	○次郎丸	柳瀬	国分	○国分	○国分	野田	○野田	○野田	伊藤	○伊藤	○伊藤
徳源	一介	巖	敏	稔(3)	毅(3)	直道(2)	美(2)	一(2)	一(2)	嘉介(2)	嘉介(2)	秀男(2)	秀男(2)	夫(2)	草夫(2)		友清(2)					

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1												
○清水	半田	三島	銀川	○銀川	渡辺	○渡辺	杉浦	川上	川上	藤田					宮崎	宮崎	福田					
真佐男	俊之介	清之		晃光		紀久男		隆三	尚徳							剛(4)						
大外落	体落	合技		送襟絞	引分	袈裟固	引分	引分	優勢	引分					引分	大外刈	背負投					
片岡	○清水	○半田	○三島	家中	銀川	島田	渡辺	杉浦	鈴木	川上						石井	川畑	○藤田				
崇	真佐男	俊之介	清之	智之	晃光	辰雄	紀久男	潤	邦夫	隆三					大將	二瓶	石井	藤田				
															興	輝	勇	吉				
															三(3)	三(3)	三(3)	三(3)				

進級月次試合
九・八級
なお本塾より熊切昭男(4)、萩原正夫(3)、早大より小野塚悦治(2)、伊藤 諱(2)が優秀選手に選ばれた。

十二月

審

七・六級

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
萩	柿	上	小	加	加	伊	伊	大	大	萩	萩	植	植	阿	植	松	米	米	清
原	本	原	磯	藤	藤	藤	藤	西	西	野	野	村	村	部	村	下	山	山	水
正	亮	惟	忠						弘之佑		貞		剛	智	健	時			
光	司	道	昭	昇	毅					夫	夫	太郎	太郎	応	郎	久		治	
体	引	優	引	引	体	引	大	引	崩	合	大	優	優	優	引	引	内	釣	引
落	分	勢	分	分	落	分	内	分	裂	枝	外	勢	勢	勢	分	分	股	込	分
							返		姿		刈							腰	
○	○											○	○			○			
真	萩	柿	上	小	阿	加	別	伊	永	小	岩	萩	小	植	阿	植	松	野	米
島	原	本	原	磯	部	藤	府	藤	田	林	崎	野	野	村	部	村	下	沢	山
	正	亮	惟	忠	俊				昌	浩	佳	貞	賢	剛	智	健	時	俊	
武	光	司	道	昭	之	昇	仁	毅	久	一	夫	夫	澄	太郎	郎	郎	久	雄	治

乙

丙

3	2	1	組										組			3	2	1	
○	○	大	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	3	2	1
岩	岩	西	永	西	森	奥	荒	荒	本	草	○	明	影	堀	堀	岩	吉	富	富
崎	崎		幡	田	田	山	木	木	重	野	野	石	山	内	内	崎	村	屋	屋
	駿	弘之佑		悦	洋	清		正	栄	計	祥	儂		義	鴻				
	介		一	庸	典	明		一	一	重	正	一		太郎	一		稔		彦
			釣込腰	支釣込足	優勢	優勢	引分	大外刈	内股	送襟絞	支釣込足	引分	背負投	上四方	送襟絞	横四方	袈裟固	引分	大外返
			○	○	○	○			○	○		○	○		○		○	○	吉
岩	河	岩	生	永	西	森	奥	三	荒	本	伽	草	明	影	福	堀		大	大
佐	端	崎	盛	幡	田	田	山	品	木	重	籃	野	石	山	沢	内	熊	熊	村
八	孝	駿	貞	悦	洋	清		正	正	栄	章	計	祥	儂	雄	義	国	国	
郎	充	介	夫	一	庸	典	明	絞	一	一	高	重	正	一	太郎	之	之	稔	

五・四級・甲組

8	7	6	5	4	3	2	1	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
○和	川	寺	小	池	○池	矢	奥	真	真	真	島	島	根	佐	岡	齋	○齋	岩	岩	岩	岩
田	上	田	野	上	上	沢	野	島	島	島	田	田	本	藤	田	藤	田	田	田	田	崎
	堅	緗	英		壯	頼	燕				章	富	善	彰	夫	榮				嘉	
弘	吉	太郎	之		一郎	道	児			武	平	夫	之	夫		二				行	

合	引	引	引	引	崩上四方	引	引	優	体	体	引	体	引	引	合	引	崩裂婆	引	合	巴	崩上四方
技	分	分	分	分		分	分	勢	落	落	分	落	分	分	技	分		分	技	投	

関	和	川	寺	小	奥	池	矢	加	小	福	真	後	島	根	○佐	岡	浅	齋	柁	川	○岩
田	上	田	野	野	野	上	沢	藤	林	田	島	藤	田	本	藤	田	川	藤	田	鍋	田
栄	堅	緗	英		燕	壯	頼	順	秀	隆	一	太	章	富	善	彰	正	榮	政	達	嘉
一郎	弘	太郎	之		児	一郎	道	介	郎	一	武	平	夫	之	夫	幸	二	治	郎	郎	行

三級・一級

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
鍋	鈴	早	小	○小	阿	阿	友	友	岩	竹	浜	○浜	奥	磯	森	松	○松	福	馬	和
田	木	川	沢	沢	部	部	田	田	上	本	野	野	田	沼	岡	吉	吉	原	目	田
	正	鉄		貞	大	大	昌	寬	治	泰	充	清	輝	夫	二		賢	一	広	道
剛	道	三		史	助	助	利	治		一	功	一	夫				三	雄		

横	引	引	背負	優	引	引	大外巻込	崩上四方	引	優	引	引	横	引	引	優	引	合	引
四方	分	分	投	勢	分	分			分	勢	分		分	分	分	勢	分	技	分

○鈴	鍋	鈴	○早	紀	小	岩	○阿	村	友	○漆	竹	手	○奥	磯	森	野	○松	福	馬
木	田	木	川	内	沢	上	部	松	田	山	本	塚	田	沼	岡	沢	吉	原	目
正	正	鉄	良	貞	史	治	大	紀	昌	孝	泰	長	清	輝	真	一郎	賢	一	広
毅	剛	道	三	介	史	治	助	民	利	一	男	功	一	夫	二	郎	三	雄	道

本年度は以上の他に、記録は残存していないが、恒例の卒業生送別大会が春休み前に実施されている。また、日時、場所の記録が明らかでないが、本塾高校は年後半に行われた次記の第二回神奈川県高等学校学年別柔道大会に全学年優勝を遂げる等の活躍をしている。

なお、本塾高校は本年度この他に、5月に講道館で行われた関東大会に出場、優勝校となった安房一高に不覚の一敗を喫した。また、秋に行われた横浜少年柔道大会に優勝をしている。定期戦を予定されていた早稲田学院に試合を拒否されたこと等、試合を申込んだ相手校が試験その他の理由で応じなかった為、公式試合以外の対抗試合は行わなかった。

第二回神奈川県高等学校学年別柔道大会

三年Aチーム(優勝)

第一回戦

慶応高校 2 | 0 県立川崎高

○鈴木 一男 跳腰 中島

頭山 統一 引分 山内

○山際 正明 大外落 坂本

第二回戦

慶応高校 3 | 0 鶴見高

第四回戦

○山際 不戦勝 原

慶応高校 1 | 0 三浦高

○鈴木 跳腰 岡野

頭山 引分 齋藤

山際 引分 吉田

決勝戦

慶応高校 1 | 1 厚木高

鈴木 引分 島村

○頭山 大外落 ○町山

山際 優勢 井上

代表戦

○山際 跳腰 島村

三年Bチーム(第2回戦にて抽選敗退)

第一回戦

慶応高校 3 | 0 秦野高

○河野 足弘 山本

○丸山 横四方 関口

○木下 内股返 丸山

第二回戦

慶応高校 1 | 1 江南高

河野 引分 木村

第3回戦

○鈴木 崩上四方 大考
 ○頭山 背負投 今井
 ○山際 大外刈 本田

慶応高校 2 — 0 Y 高

代表戦

○鈴木 跳腰 石田
 頭山 引分 戸厚
 ○丸山 隠勢 木之下
 木下 大外返 ○栗原
 河野 引分 栗原

抽選の結果江南高の勝。

二年Aチーム(優勝)

第一回戦

慶応高校 3 — 0 鶴見高

第二回戦

○稲田 詢 大外落 坂田
 ○福田 靖与 背負投 緑川
 ○伊藤 照彦 小外刈 大野

慶応高校 3 — 0 横須賀市工

○稲田 横四方 柳堀
 ○福田 内股 塚田

第三回戦

○伊藤 小内刈 名取

慶応高校 3 — 1 小回原商工

第四回戦

○稲田 合技 加藤
 ○福田 横四方 長谷川
 ○伊藤 優勢 山本

慶応高校 3 — 0 横須賀高

第五回戦

○稲田 崩上四方 松岡
 ○福田 横四方 菅原
 ○伊藤 飯村

慶応高校 2 — 1 三浦高

決勝戦

○稲田 優勢 鈴木
 ○福田 上四方 菅原
 ○伊藤 大内刈 ○藤井

慶応高校 1 — 0 平塚高A

二年Bチーム(四回戦にて敗退)

○稲田 優勢 伊藤
 福田 引分 小林
 伊藤 引分 原

第一回戦

慶応高校 1 — 0 開成高

小倉 英夫 引分 戸塚

⊖鈴木 正毅 判定 森

星野 敬 引分 梅原

第二回戦

慶応高校 3 — 0 藤岡高

小倉 合技 飯田

⊖鈴木 大外刈 保坂

⊖星野 優勢 中丸

第三回戦

慶応高校 3 — 0 秦野高A

小倉 崩上四方 山田

⊖鈴木 送襟絞 相原

⊖星野 大外刈 畑野

第四回戦

慶応高校 0 — 2 平塚高A

小倉 大外刈 原

鈴木 判定 ⊖小林

星野 引分 伊藤

一年Aチーム(優勝)

第一回戦

慶応高校 3 — 0 川崎工B

⊖渡辺 明治 大外刈 田代

⊖檜山 洽 小外刈 隈田

⊖豊永 勝 袈裟固 佐々木

第二回戦

慶応高校 3 — 0 桜ヶ丘高

⊖渡辺 優勢 大島

⊖檜山 袈裟固 小林

⊖豊永 跳腰 内藤

第三回戦

慶応高校 2 — 0 横須賀工

⊖渡辺 大外刈 石井

⊖檜山 合技 高田

⊖豊永 引分 猪熊

第四回戦

慶応高校 2 — 1 逗子開成

⊖渡辺 大内返 矢島

⊖檜山 優勢 和田

⊖豊永 大外刈 金子

決勝戦

慶応高校A 0 — 0 慶応高校B

代表戦

◎渡 辺

優 勢

佐々木

第一回戦

一年Bチーム(決勝戦にて本塾Aチームに敗る)

慶応高校

2 — 1

藤 沢 高

◎橋 本 光 蔵

上 四 方

加 藤

◎佐々木 真一郎

支 釣 込 足

山 本

岩 上 寛 治

背 負 投

◎新 倉

第二回戦

慶応高校

3 — 0

横 須 賀 高 B

◎橋 本

肩 固

小 早

◎佐々木

支 釣 込 足

桜 井

◎岩 上

大 内 刈

本 井

第三回戦

慶応高校

3 — 0

三 浦 高

◎橋 本

小 内 刈

安 藤

◎佐々木

体 落

新 保

◎岩 上

崩 上 四 方

小 野

第四回戦

慶応高校

2 — 0

厚 木 高

◎橋 本

袈 裟 固

佐 藤

◎佐々木

引 分

押 田

◎岩 上

優 勢

青 木

第五回戦

慶応高校

3 — 0

横 須 賀 高

◎橋 本

崩 上 四 方

後 藤

◎佐々木

判 定

白 幡

◎岩 上

袈 裟 固

河 西

決勝戦(本塾Aチームに代表戦に敗る)

「余録」

柔道部々報復刊第一号昭和二十八年三月発刊

戦後禁止されていた学校柔道が二十五年十月解除されるため久方振りに部報の発刊を見るに至った、然してこれも昭和三十一年第四号を最後に廃刊となった。これに就ては二十七年より体育会月報が、三十一年から柔友会報が発刊され記事の重複や部務の繁雑を避けたものと考えられる。

尚ほ編輯兼発行人は第一号福田 満、第二号堀越忠義、第三号広瀬久也、第四号頭山統一となつてゐる。